

ものづくり産業と地域活性化

—新潟県燕・三条地域を事例として—

経営学部 経営学科 梅村ゼミ

B4R11171 松崎 真梨那

【卒業論文概要】

燕三条地域は、作業工具・刃物関連を主体とした金属製品で日本有数の「ものづくりのまち」として知られ、中小企業の集積と金属加工技術のネットワークの結びつきにより地域産業を形成している地域である。しかし、安価な海外製品との内外市場での競合等による産業規模の縮小、担い手の高齢化、企業連携の弱さ等、様々な課題を抱えている。

本稿では、燕三条地域の中小企業、施設へのインタビュー調査、地域内イベントへの参加から、ものづくりがもたらす地域経済の活性化について考察し、今後の存続・発展方向について検証することを目的としており、燕三条地域の現状から、①産業観光、②後継者の育成・伝統技術の継承、③企業の連携の3つの視点に立って考察した。

調査の結果、産業観光の点において、企業が積極的に実施、参加しているオープンファクトリーや工場の祭典といった地域イベントは、自社製品の販路やPRとしての役割だけでなく、燕三条地域を「ものづくりのまち」と認知してもらうための産業観光の拠点としての役割を果たしており、また、企業ブランディングだけでなく地域ブランディングにも貢献していることがわかった。後継者育成・伝統継承の点では、地域の施設が行う伝統技術を熟練職人から担い手になる職人へ継承する研修、そして職人が観光客、地域住民、小中学生に技術体験や体験を通してものづくり精神を伝える取り組みは、後継者育成・伝統継承の大きな役割を担っている。同時に、「技術の言語化」の推進や人事考課の工夫等も人材育成の面から重要になるだろう。企業の連携について、技術集積によって得意分野を活かし、個々の事業者をネットワーク化して共同受注システムを構築することで、世界レベルの高度な技術を強みに、様々な企業のニーズに応えることができる取り組みを行っている。これは地域外企業からの受注に地域全体で対応することで、地域経済の活性化にも貢献している。以上のような燕三条地域の企業や施設の事例、地域内の取り組み状況から、燕三条地域の企業や職人達は地場産業の現状に関して敏感であり、課題を解決しようとする活動や制度を考えて実現する力があると感じた。さらに、燕三条地域が今後、地場産業を通してどのように発展していくのかという期待を込めて、調査から感じた課題やものづくり産業の今後の存続・発展方向について提示した。